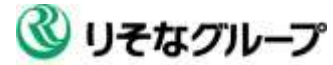


# りそな 経済フラッシュ

## (ECB <欧州中央銀行> 理事会)

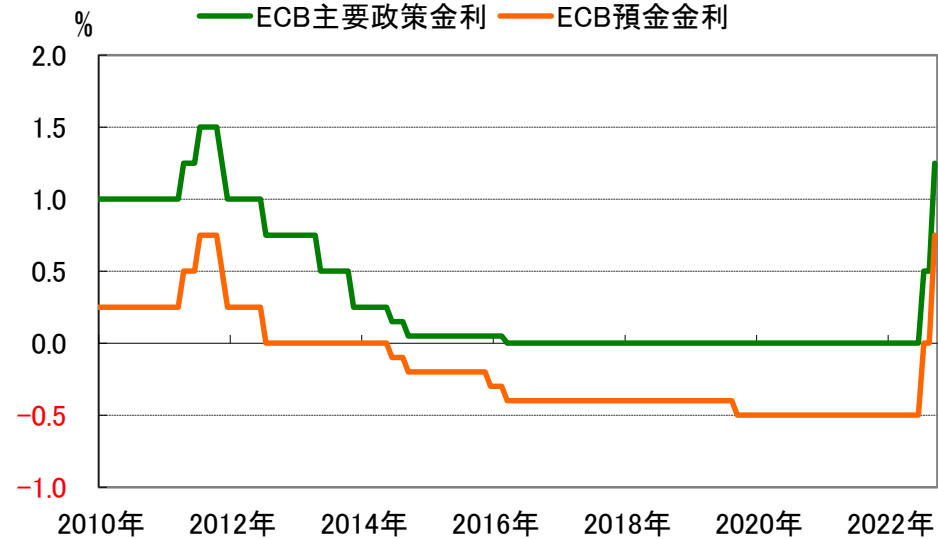


### ○概況

- ◆ ECB理事会では発足以来初となる0.75%の大幅利上げを決定した
- ◆ インフレ率見通しを上方修正し、成長率見通しは下方修正
- ◆ ラガルド総裁の記者会見は「データ次第」「会合毎に議論」と繰り返し、利上げ到達点に対する具体的な言及は避けた

- ✓ 9月8日に開催されたECB（欧州中央銀行）理事会では2会合連続での利上げを決定し、預金ファシリティ金利を0.75%、主要政策金利を1.25%、中銀貸出金利を1.50%へそれぞれ引き上げた。0.75%の利上げはECBの発足以来初となる。前回に続き、更なる金利の正常化を適切としつつ、今後の利上げについては会合毎に決定するとした。
- ✓ ラガルド総裁の記者会見では2%のインフレ目標に向けて引き締め姿勢を続けることを強調した一方、0.75%幅の利上げは標準的ではなく、次回の利上げ幅は0.75%である必要はないとし、ターミナル金利（利上げ到達点）についての質問にも明確な回答はさけた。全体として、「データ次第」「会合毎に議論する」という2点を終始繰り返した。
- ✓ 足元でパリティ割れ（対USDで1.0割れ）の水準で推移するEUR相場について、ユーロ圏のインフレ上昇を助長していると指摘した一方、為替相場はECBのターゲットではないとし、注視するとの表現に留めた。
- ✓ 利上げ幅については概ね事前に織り込み済みであったことから、利上げ発表直後の市場の反応は限定的であったが、ラガルド総裁の記者会見が始まると、今後の利上げ幅や利上げ到達点についての明確な示唆はなく、「会合毎に議論する」と繰り返し回答する等、想定よりもタカ派寄りではないと受け止められ、EUR相場が下落する場面もあった。
- ✓ 多くの加盟国を抱え、それぞれの経済状況に大きな乖離が生じているなかで、ECBとラガルド総裁は極めて難しい舵取りを迫られている。「会合毎」との繰り返しの発言には、かかる困難な環境での決断の難しさが滲み出る。足もとでイタリア国債のスプレッドは一定程度落ち着きを取り戻しているが、今後の経済状況や市場環境の変化には引き続き注意が必要であろう。

### 【ECB政策金利と預金金利】



### 【ECBスタッフ見通し（9月時点）】

	2022年	2023年	2024年
<b>実質GDP成長率</b>	+3.1	+0.9	+1.9
6月時点の見通し	+2.8	+2.1	+2.1
<b>HICP(消費者物価)</b>	+8.1	+5.5	+2.3
6月時点の見通し	+6.8	+3.5	+2.1

前年比、%

【出所】ECB、Bloomberg

### ◎注意事項

本資料に記載された情報は信頼に足る情報源から得たデータ等に基づいて作成しておりますが、その内容については明示されていると否とにかかわらず、弊社がその正確性、確実性を保証するものではありません。また、ここに記載された内容が事前の連絡なしに変更されることもあります。また、当資料は情報提供を目的としており、金融商品等の売買を勧誘するものではありません。取引時期などの最終決定はお客様ご自身の判断でなされるようお願い致します。

お問い合わせは、取引店の担当者までご連絡ください。